

【今週の注目疾患】

《A型肝炎》

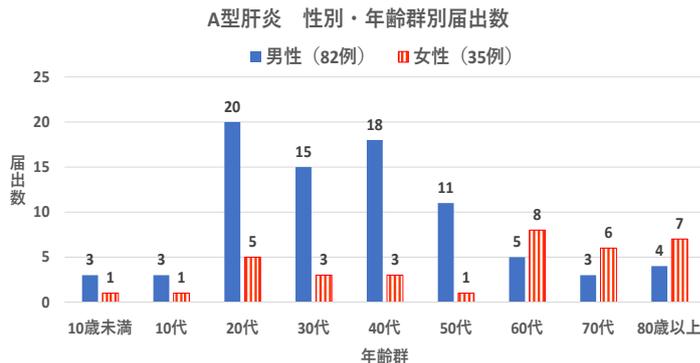
2024年第16週に県内医療機関からA型肝炎の届出が1例あり、2024年の累計届出数は2例となった。2例とも性別は女性で、年齢はともに80歳以上であった。

2015年から2024年第16週までの期間において、県内医療機関から合計117例のA型肝炎の届出があった。過去10年間では最多であった2018年をピークに、2020年以降は届出数が大きく減少している（図1）。性別では男性が82例（70%）、女性が35例（30%）で男性が多く、年齢群別で見ると20代～50代の男性が多かった（図2）。

図1：2015年～2024年第16週に県内医療機関から届出のあった



図2：2015年～2024年第16週に県内医療機関から届出のあった



A型肝炎は、ピコルナウイルス科（Picornaviridae）へパトウイルス属（Hepatovirus）のA型肝炎ウイルス（hepatitis A virus：HAV）感染による急性感染症である。HAVは、汚染された食物や水の摂取によって、または感染者との直接的な接触によって伝播する。上下水道等、衛生環境が整備された先進国においては、A型肝炎の大規模な集団感染は稀になったが、男性間性交渉者（men who have sex with men：MSM）や注射薬物使用者（persons who inject drugs：PWID）の間で発生があることが知られている¹⁾。

A型肝炎の潜伏期間は2～6週間（平均4週間）で臨床症状は38℃以上の発熱、全身倦怠感、食欲不振、頭痛、筋肉痛、腹痛などの症状に続き、黄疸、肝腫大などの肝症状が出現する。患者は加齢とともに重症化の割合が増える。ウイルス特異的な治療法はないが、一般に予後良好で（致死率<0.5%）、2～3ヵ月で自然治癒し、慢性化することはない。5歳以下の小児では約90%が不顕性感染であり、成人では90%が顕性感染である。一度感染すると終生免疫が得られる。HAVは発症前約2週間～発症後数ヵ月まで長期に便中に排出されるため、感染者は発症前から感染源となり得る¹⁾。

感染対策としては、患者の排泄物や汚染食品等の適切な処理、手洗いを始めとする衛生管理の徹底、十分な加熱処理（85℃、1分以上）、塩素剤による消毒などにより、感染源・感染経路対策を行う。症状消失後についても約1～2ヵ月の間はウイルスの排出が続くことから、手洗い等の対策を継続することが重要であるとされている。なお、HAVはアルコール耐性があるので消毒の際は注意が必要である。感染予防には、国内で承認済みのワクチン接種により長期間の発症予防が期待できる。接種者の抗体獲得率はほぼ100%であり、流行地域への渡航者、医療従事者、慢性肝疾患患者、MSM等の高リスク者にあっては接種が推奨される。また、ウイルスに曝露された後でも、ウイルスとの接触機会から2週間以内に1回接種を受けることができれば感染予防効果もあるため、曝露後接種も有効である^{1,2,3,4,5)}。

■参考・引用

- 1)国立感染症研究所：IASR Vol.40 p147-148：2019年9月号
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/hepatitis-a-m/hepatitis-a-iasrtpc/9107-475t.html>
- 2)厚生労働省：A型肝炎患者の報告数増加に伴う注意喚起について（協力依頼）
<https://www.mhlw.go.jp/content/000346520.pdf>
- 3)食品安全委員会：ファクトシート A型肝炎（Hepatitis A）
https://www.fsc.go.jp/factsheets/index.data/factsheets_11hepatitis.pdf
- 4)一般社団法人日本感染症学会：A型肝炎（Hepatitis A）
<https://www.kansensho.or.jp/ref/d08.html>
- 5)厚生労働省検疫所FORTH：A型肝炎について（ファクトシート）
<https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2017/09041306.html>

【Topics】

《ゴールデンウィークに海外へ渡航される皆様へ》

海外においては、国内では見られない感染症が流行していることがあり、海外滞在中に感染する可能性があります。海外へ渡航する際には、事前に渡航先における感染症の流行状況、現地滞在中の注意点、海外渡航に際し推奨されている予防接種をご確認ください。

また、感染症には、潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）が数日から1週間以上と長いものもあり、渡航中や帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。その場合は、医療機関に事前に電話連絡して海外渡航歴があることを伝え、受診し、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴等についてお伝えください。

○食べ物や水を介した消化器系の感染（A型肝炎、腸チフス、細菌性赤痢、コレラなど）

食事は十分に火の通った信頼できるものを食べるようにし、生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。手洗い等の手指衛生をこまめに行ってください。

また、A型肝炎については国内で承認済みのワクチン接種で予防することができます。

○蚊を介した感染症（マラリア、デング熱、日本脳炎、黄熱、ジカウイルス感染症など）

蚊が生息する熱帯・亜熱帯地域などでは、できるだけ肌を露出せず、虫除け剤を使用するなど、蚊に刺されないよう注意してください。

○ダニを介した感染症（リケッチア症、ライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎、重症熱性血小板減少症候群（SFTS））

ダニが生息する地域で、草むら、ヤブなどに入る場合は、肌の露出を少なくし、虫除け剤も必要に応じて使用してください。

○動物を介した感染症（狂犬病、鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群（MERS）など）

動物は重篤な感染症の原因となる病原体を持っている可能性がありますので、むやみに動物に近づかない、動物に触れないことが大切です。動物に触れた場合、手洗い等の手指衛生を行ってください。

○人から人に広がる感染力の強い感染症（麻しん、風しんなど）

咳や発熱、発疹など、なんらかの症状がある方との濃厚な接触は避けるようにしましょう^{1, 2)}。

その他詳細は下記をご参照ください。

■参考・引用

- 1)厚生労働省検疫所 FORTH：海外へ渡航される皆さまへ!
https://www.forth.go.jp/news/20220722_00001.html
- 2)【感染症エクスプレス@厚労省】Vol.510（2024年4月15日）
<http://kansenshomerumaga.mhlw.go.jp/backnumber/2024-04-15.html>